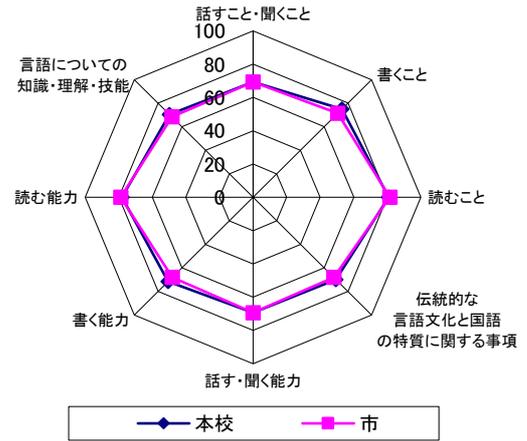


宇都宮市立清原南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	69.3	69.3	73.4
	書くこと	74.9	71.3	74.6
	読むこと	80.8	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.8	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	69.3	69.3	73.4
	書く能力	71.6	68.1	71.7
	読む能力	78.1	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	70.3	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

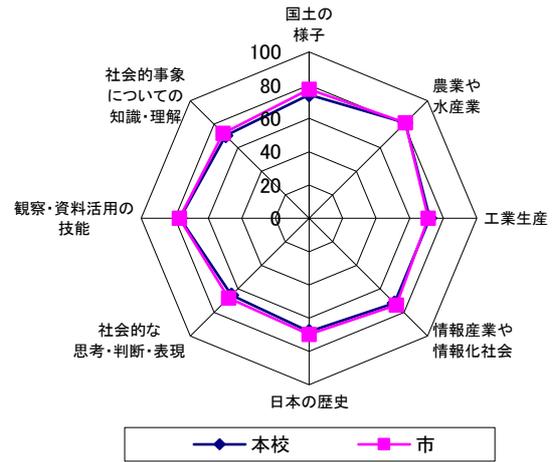
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○本校の平均正答率は69.3%と市の平均正答率69.3%と同じであった。話し手の意図を考えながら、話し合いの内容をまとめることができた。</p> <p>●話し方の工夫を考えながら、話し合いの内容を聞くことに課題が見られた。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・各教科や学級活動で話し合い活動に積極的に参加し、話し合いの要点を理解して聞けるような場を設け、取り組ませていきたい。</p>
書くこと	<p>○本校の平均正答率は74.9%と市の平均正答率(71.3%)より3.6ポイント高い。条件に合わせて文章を書く、また、自分の意見を明らかにして文章を書くことができていた。</p> <p>●グラフの内容を読み取り、文章に書き写すことに課題が見られた。</p>	<p>・国語科に限らず、社会科や総合的な学習の時間など、他教科の領域でも、資料を読み取ったことから文章に書き表す活動を多く取り入れ表現力の向上を図りたい。</p>
読むこと	<p>○物語の場面の描写を読み取ることがよくできた。</p> <p>●本校の平均正答率は80.8%と市の平均正答率81.5%より0.7ポイント低い。説明文の内容を的確に読み取ることに課題が見られた。</p>	<p>・児童が主体となって説明文の段落ごとの内容をまとめたり、段落の構成を読み取らせたりすることで、説明文の内容を的確に読み取れるようにしていきたい。</p> <p>・読書活動において様々な分野の本を読めるような機会を増やしていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○本校の平均正答率は69.8%と市の平均正答率68.1%より1.7ポイント高い。その中でも、漢字の読み書きに関して定着が図られている。</p> <p>●同音異字語と敬語(謙譲語)に関する理解が不十分な児童が見られた。</p>	<p>・漢字については引き続き反復練習をし、漢字の意味を考えさせることで、同音異字語の定着を図っていききたい。</p> <p>・普段の生活から敬語の使い方を意識させたり、敬語に関する問題に取り組ませたりしていきたい。</p>

宇都宮市立清原南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	74.3	77.5	74.0
	農業や水産業	81.1	81.1	73.7
	工業生産	72.0	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	72.0	73.7	63.2
	日本の歴史	68.0	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	65.3	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	76.9	77.3	75.5
	社会的な事象についての知識・理解	70.2	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

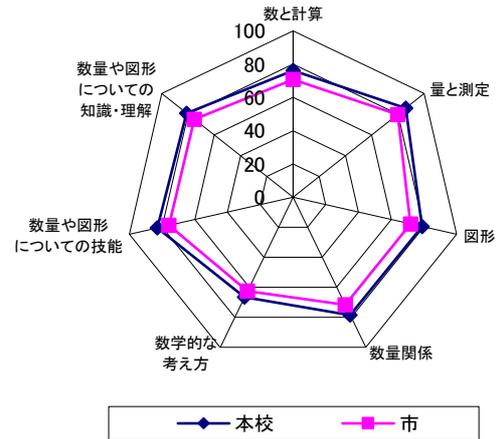
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	<ul style="list-style-type: none"> ●本校の平均正答率は74.3%と市の平均正答率(77.5%)より3.2ポイント低い。日本の周辺の国の位置や国旗、雨温図を通して日本の気候の様子を読み取ることの理解が不十分であった。 ○日本周辺の海洋名は理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳を活用し、日本の周辺の国の位置や国旗に関心を高める。 ・知識をもとに資料を論理的に関連付けることで、資料を活用する力を高めていく。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は81.1%と市の平均正答率(81.1%)と同じである。農家の人々が抱える問題について複数の資料から読み取り、考えて表現することができた。 ●日本の食糧生産が抱える課題について、資料にもとづいて考える力が不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き身近な地域への関心を高め、そこから日本の農業や水産業が抱える課題についての理解を深める。 ・教科書や資料集にある資料から、現状や問題点を読み取る学習を単元の中で積極的に取り入れていく。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の平均正答率は72.0%と市の平均正答率(71.1%)より0.9ポイント高い。化学工業の製品についての理解はできていた。 ●工業地帯、地域の立地について資料を読み取り考えることに課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工業製品の学習や工場見学を通して、引き続き関心を高めていく。 ・資料を活用する場面を増やし、資料の読み取る力をのばしていく。
情報産業や情報化社会	<ul style="list-style-type: none"> ●本校の平均正答率は72.0%と市の平均正答率(73.7%)より1.7ポイント低い。身の周りのメディアについての理解や、医療における情報ネットワークの利便性についての理解に課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で映像によるニュースや新聞記事を扱い、正しい知識や判断力を養うとともに、情報を活用する学習を通して、多様化している情報化社会に対応できる力を身に付けられるようにしていく。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ●本校の平均正答率は68.0%と市の平均正答率(69.7%)より1.7ポイント低い。縄文時代や鎌倉、室町時代、明治維新の殖産興業についての理解が不十分であった。 ○安土桃山～江戸時代に関しては、複数の資料を関連付けて読み取るすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの時代で起きた出来事について整理し、知識の定着を図る。 ・資料をもとに時代背景を読み取る力を伸ばしていく。

宇都宮市立清原南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	76.2	70.8	65.9
	量と測定	86.0	79.9	77.0
	図形	78.9	71.8	74.6
	数量関係	78.6	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	66.6	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	82.9	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	81.1	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

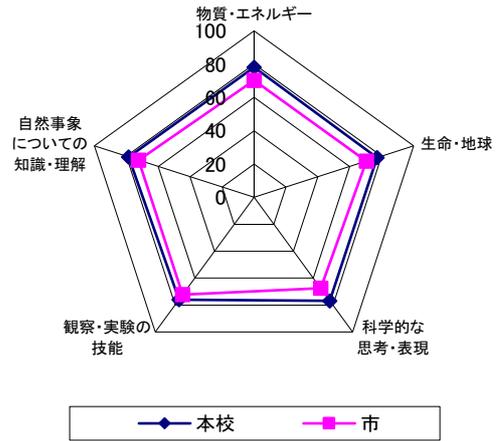
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の平均正答率は76.2%と市の平均正答率(70.8%)より5.4ポイント高い。小数の計算や整数の仲間分けはよくできている。 ●分数の除法の文章問題を表した図の理解が不十分であった。	・数直線の書き方を各学年で段階的に指導して理解を深めることで、分数の計算などの文章問題で自ら数直線を書き、活用できるようにしていく。
量と測定	○本校の平均正答率は86.0%と市の平均正答率(79.9%)より6.1ポイント高い。面積や体積の求め方、単位量当たりの大きさや速さの求め方の理解はよくできている。	・公式の意味や使い方を繰り返し確認し反復することで、様々な問題に対応できるような力をつけていく。
図形	○平均正答率は78.9%と市の平均正答率(71.8%)より7.1ポイント高い。多角形の内角や図形の展開図に関する理解は高い。対称な図形や合同な図形の作図もよくできている。 ●五角形の内角の和と線対称の対象の軸についての理解が不十分であった。	・今後も図形を視覚化し図形の構造について分かりやすく理解できるように心がけていく。 ・様々な視点から図形を見る力がつくよう、児童の中での学び合いや気づきを大切に、共有できるような授業を心がける。 ・図形の問題において、解き方が決まっている内容については、繰り返し練習問題を解き、解き方の定着を図る。
数量関係	○平均正答率は78.6%と市の平均正答率(71.7%)より6.9ポイント高い。文字式の表し方を理解し、比例と反比例の関係を式に表したり、表に当てはまる数を求めることができる。 ●グラフをもとにもとにする量が同じとき、割合が大きいほうが比べられる量が多くなることを具体的に記述で説明することに課題が見られた。	・考えたことを言葉で表し、説明する機会を増やすことで、問題に関する理解を深め、さらなる定着を図る。

宇都宮市立清原南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	78.1	70.3	69.0
	生命・地球	77.1	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	76.9	67.5	66.4
	観察・実験の技能	76.0	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	78.6	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○本校の平均正答率は78.1%と市の平均正答率(70.3%)より7.8ポイント高い。電流のはたらきや物の燃え方、水溶液の性質の正答率が高かった。</p> <p>●ふりこの周期を求める問題や、ものを溶かす前と後の重さが変わらないことについての理解が不十分であった。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想、実験や観察、結果、考察の問題解決の過程に沿って学習を進めていくことで、児童の関心意欲を高めていきたい。 ・目的に応じて、条件を揃えたり、変えたりして、実験観察を行い、結果を自分の言葉で考察ができるように支援していきたい。 ・授業の導入で、前時の学習内容を確認したり、身の回りの現象と関連付けたりして知識の定着を図りたい。
生命・地球	<p>○本校の平均正答率は77.1%と市の平均正答率(70.4%)より6.7ポイント高い。食物連鎖についてや、月と太陽についての問題は正答率が高かった。</p> <p>●動物のからだのつくりとはたらきでは、心臓のはたらきについての理解が不十分であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動物のからだのつくりとはたらきでは、映像資料を活用したり、インターネットで調べ学習をしたりすることでさらに理解を深めていきたい。

宇都宮市立清原南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学び合いの学習を通じた、論理的思考力の向上	言語活動の充実や学び合いの場の設定により、自分の思考を整理し、根拠を明確にし、意見の交換ができるようにした。また、学びを深め合う場面をすることで、学習意欲を高め、学びに向かう力の向上を目指している。	学び合いを意識して多くの活動を行った国語・理科・算数領域で市平均を上回った。一人ではなく、みんなで一緒に考え、学習を進めることで、意欲の高まりや知識の定着が図られた。
単元や子どもの実態に合わせた少人数指導や習熟度別学習の充実。繰り返し学習による内容の定着。	個に応じた対応と集団の特性を効果的に生かす学習形態を工夫し、計画的、継続的に指導にあたっている。教材を繰り返し活用することで、問題の解き方の定着を図っている。	全体的に市の平均より正答率が高く、基礎基本の定着が図られている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・すべての教科において必然性のある考えの交流、学び合いの場の設定をすることで、より一層の学力向上をめざす。また、児童の考えを整理する板書の工夫に努め、どの児童にも効果的に思考や要点の整理、考えのまとめ、発信ができるようにする。

・家庭学習において、自ら計画を立てて取り組むことに課題が見られた。授業で習ったことの復習、問題の解き直し、次の学習内容の予習など、学年の発達段階に応じて、より確かな学力の定着に結びつく復習、予習の勧めや自主的な課題の見つけ方を示すなど、意識を高める工夫をする。